



『種蒔く人』閑話

秋田県立図書館 館長 菅原 敏紀



一九二一（大正一〇）年二月二五日に土崎版『種蒔く人』第一号が創刊され、今年で百年余の年月が経ちました。先日、中野重治の一九六一年（昭和三六）年『種蒔く人』全巻復刻記念講演会での講演内容を読み返しましたが、中野が『種蒔く人』の功績として列挙した、日本プロレタリア文学運動の原点、第三インターナショナルの紹介、一貫した反戦思想、人道主義的見地からの国際支援活動等は、現在においても色あせることなく高く評価されていると感じます。

よく知られているとおり、土崎版『種蒔く人』は表紙を含めて二〇頁に満たない小冊子である上、僅か二百部しか印刷されませんでした。日本近代文学研究所による復刻版が出るまでは、土崎版の三冊とりわけ第一号は稀覯中の稀覯本、言わば幻の一冊でした。初期プロレタリア文学研究でも知られる稲垣達郎先生の「『種蒔く人』と私」には、先生が『文学』に「『種蒔く人』（上）」を発表する際、当時唯一の所有者であった「勝本清一郎氏架蔵のものを瞥見^{べっけん}」したと記されています。往事の『種蒔く人』研究の大変さがよく伝わるエピソードと言えます。

秋田県立図書館は、種蒔く人顕彰会から寄贈された九百八点に及ぶ種蒔く人関連資料を所蔵しており、幻の一冊と言われた土崎版第一号もその中に含まれます。既に閲覧室で目にされた方もいらっしゃると思いますが、九月の郷土資料コーナー展示「秋田の『種蒔く人』」ポスターには、職員が撮影した第一号の表紙が使用されています。

当館所蔵土崎版『種蒔く人』第一号にまつわる来歴をお話すると、復刻版が出る一年前、一九六〇（昭和三五）年六月『社会主義文学』

第十二号は、『種蒔く人』旧同人の小牧近江、金子洋文、今野賢三等による座談会と、土崎版『種蒔く人』第一号全編再録を特集しました。座談会と再録のために用立てられたのは、勝本清一郎が所有していたものではなく、今野賢三が秋田で新たに発見した一冊でした。

そう言える根拠は『社会主義文学』の編集後記と再録解説に、今野による新発見の事実と、発見に至る労苦への感謝が綴られているからです。また種蒔く人復刻版別冊の中で金子洋文は、今野賢三が「秋田にかえった時、小牧の甥の近江谷喜六君が、創刊号を持っていることを発見した」と事の経緯を明らかにしています。同様に稲垣達郎先生も前述の「『種蒔く人』と私」の中で、「さいきん^{（原文ママ）}になつて今野氏が秋田の方で発見され「社会主義文学」で翻刻もしたが、それまでは、旧同人の手許にも一本もなかったのだ」と述懐なさっています。

それでは改めて第一号の表紙を見てみると、表紙左上には「昭和三十五年二月十二日『社会主義文学』座談会記念」とペン書きされ、左下には座談会出席者である金子洋文、今野賢三両氏の署名があります。以上のことから、当館が所蔵する土崎版『種蒔く人』第一号は『社会主義文学』第十二号の座談会と再録の際に用立てられた、まさに今野賢三が発見した貴重な土崎版であると結論付けられるのです。



『種蒔く人』表紙

『種蒔く人』に限らず、当館は秋田県にゆかりのある貴重な資料を数多く所蔵しています。郷土の先人が創り上げた文化、芸術を広く収集し、大切に保存する風土が秋田にあったお陰と改めて感謝するとともに、いろいろ厳しい世の中ですが、この美風を途絶えさせることなく受け継いでいくことは、現代に生きる私たちに課せられた役目だと思ふのです。

新事業「休館日を活用した図書館見学」について

1 実施のねらい

県が策定した「秋田県読書活動推進基本計画」において、図書館では児童・生徒等が読書に興味を持ち、関心を高めることができるよう、小中学校の職場体験や高校生・大学生のインターンシップ、施設見学を積極的に受け入れることをかかげました。

多くの児童・生徒が図書館司書の仕事を体験したり、読書体験や貸し出し体験を行ってきました。

特別支援学校については、施設見学の受け入れの他、児童・生徒の実態に応じて職場体験やインターンシップを受け入れた例もありました。初めて県立図書館の閲覧室に入った多くの児童・生徒からは、本がたくさんある空間を喜ぶ感想が届けられ、図書館の仕事や本に対する関心の高さがうかがえました。一方、引率する先生方は、静かな閲覧室で気を遣いながら、かつ密を避け、苦勞しながら生徒や児童たちを引率している姿も多く見られました。

そこで、以下の3点をねらいとして、この事業を立ち上げました。

- ・ 密を避けた環境で気兼ねなく図書館を利用できる。
- ・ 読書への意欲を高める。
- ・ 将来の図書館利用の基礎を学ぶ。

2 実施内容と実施までの流れ

この事業の対象は、県内の特別支援学校の児童・生徒にしました。

休館日である水曜日は、第1週目には会議やテーマ展示等の様々な作業があり、また第3週目には図書館協会の行事や職員研修会等が計画されているため、実施日時は第2週目と第4週目としました。

実施内容としては、①館内見学 ②閲覧室での読書体験 ③貸出体験のうちから選択することにした。

実施までの流れは、学校からの申し込みがあった際に、参加児童・生徒と引率者の人数、実施を希望する日時と内容、児童・生徒たちの状況と図書館側で必要なサポート、学校から図書館までの移動手段などを確認します。

場合によっては、事前に図書館に足を運んでもらい、当日の打ち合わせやスクールバスの乗降場所、閲覧室までの経路、訪問時に注意する点等を確認してもらいます。

その後、打ち合わせで決まったことをふまえて、図書館側の必要人数の調整、見学の支障となるような箇所の安全確認、担当する職員の打ち合わせ等を行い、当日に備えます。

3 秋田きらり支援学校の訪問

7月13日(水)に県立秋田きらり支援学校の小学部7名と高等部2名の訪問がありました。

4月末に見学申し込みの連絡があり、その中で訪問する児童・生徒の9割が車イスを使用し、小学部の児童はスクールバスの乗降に時間がかかることがわかりました。5月下旬に先生方には下見をしていただき、バスの乗降場所や移動経路、配慮が必要な点等を一緒に検討しました。

当日児童・生徒はエントランスホールで図書館の説明を聞いた後、スロープを使って2階に移動し、閲覧室内の見学に続いて、読書体験をしました。職員にわからないところを質問したり、司書がOPACを使って本を検索する場面も見られました。



始まりのあいさつを行う
菅原館長



スロープを使って2階閲覧
室に移動



OPACを使った本の検索



図書館について質問する
児童・生徒も

最後にカウンターで、自分が借りたい本の貸し出し処理が終わると、どの児童・生徒もうれしそうに本を抱えていました。



先生たちといっしょに借
りる本を探す児童



貸し出し体験

博物館との連携展示「絵葉書にみる昔の秋田一町・人・暮らし」

4月8日(金)から5月24日(火)まで、博物館との連携展示「絵葉書にみる昔の秋田一町・人・暮らし」を開催しました。

現在みられる絵葉書は観光名所を写した観光絵葉書、絵画やデザインなどを載せた美術絵葉書が大部分ですが、昔の絵葉書は、町並み、建物、学校、様々な工場など、日常的な生活風景を撮影したものがたくさんあります。それらは当時の町の姿や人々の暮らしを知る貴重な画像資料でもあります。

今回の展示では、明治時代の末から昭和戦前にかけて撮影された秋田県内の町並み、日常の暮らし、当時最盛期であった鉱山や油田などの様子を伝える写真絵葉書を展示しました。

なつかしい秋田の風情を食い入るように鑑賞する姿が多く見られました。



秋田県内の油田を撮影した絵葉書

象潟郷土資料館との連携展示「池田修三とふるさと秋田」

6月16日(木)から7月12日(火)まで、象潟郷土資料館との連携展示 池田修三生誕100周年記念作品展「池田修三とふるさと秋田」を開催しました。

にかほ市象潟町出身の木版画家池田修三の作品といえば、かわいらしい少女の絵を思い出す方も多いと思いますが、今回の展示では池田修三が愛したふるさと秋田の情景を描いた作品や多色刷りに転向する前のモノクロ作品、池田修三の作品が採用された広報紙やカレンダーなどを展示しました。

「鳥海残雪」は、真っ黄色な菜の花で覆われた丘

の向こうに残雪の鳥海山がそびえるという作品です。

「かまくら」は、かまくらの中で楽しく過ごす子どもたちが描かれています。またエントランスホールにも2種類のタペストリーと池田修三の写真を展示しました。

期間中は池田修三のファンや初めて池田修三の作品を見る方など、連日多くの入場がありました。



各コーナーを示す作品のタペストリー



エントランス2階に展示された作品のタペストリーと池田修三の写真

令和4年度北日本図書館連盟研究協議会 第46回秋田県図書館大会

10月20日(木)・21日(金)、「新しい時代の公共図書館ー”バリアフリー”の図書館サービスを考えるー」をテーマに、県生涯学習センター講堂にて開催しました。今回は、会場参加とオンライン参加の併用とし、北海道及び東北各県から図書館関係者161名の申し込みがありました。

1日目は、富士大学の早川光彦教授から「新しい時代の図書館戦略ーすべての人が使える図書館を考える」と題した基調講演、また、日本図書館協会の植松貞夫理事長からは最近の図書館界の情勢についてお話がありました。

2日目には、「青森市民図書館における障がい者サービスとサピエの利用」、「せんだい電子図書館の取り組み」、当館から「関係機関と連携した図書館利用促進の取り組み」の三つの事例報告とパネルディスカッションを行い、活発な意見が交わされました。



パネルディスカッションの様子

Pick up

～各班からの話題～

図書資料班

伊藤永之介文庫への寄贈資料について

7月、伊藤永之介の子孫にあたる善養寺幸子氏より、当館の伊藤永之介文庫へ100点の関係資料の寄贈がありました。

伊藤永之介の著書や小説・エッセイなどが掲載された雑誌の他、自作小説に関係する直筆の原稿やメモノート、推敲段階の雑誌記事、自身の小説に対する書評について考えを書き込んでいる当時の新聞など、農民文学の作家として活躍した永之介の姿が目に浮かぶ貴重な資料の数々となっています。



伊藤永之介直筆のノートと原稿

情報班・サービス班

県立図書館YouTubeチャンネルで動画を公開！

10月27日(木)から、秋田県立図書館YouTubeチャンネルで以下の利用案内の動画6本の公開がスタートしました。

- ・本を上手に探すコツ①図書館の本の並び方を知る
- ・本を上手に探すコツ②検索用パソコンを使いこなす
- ・本を上手に探すコツ③レシートの見かたを知る
- ・えほんのへやのご案内
- ・新聞コーナーのご案内
- ・活字を読むことが困難な方へのご案内

動画では、図書館での本の探し方や、各コーナー・サービスの案内をしています。下記URLまたはQRコードより、ぜひご覧ください。

秋田県立図書館 YouTube 検索

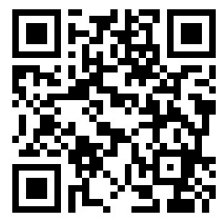
URL▶https://www.youtube.com/channel/UC91b5vqrWE BtDVj3-_U4EAA

秋田県立図書館
本を上手に探すコツ



図書館の本の並び方を知る

動画の一例



YouTubeチャンネル
QRコード

企画・広報班

「本でつなごう!理解のWA」連携展示



解説パネル、パンフレット、
関連図書を展示

3月31日(木)から4月26日(火)まで、『世界自閉症啓発デー2022「本でつなごう!理解のWA」』と題し、秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田との連携展示展示を行いました。

発達障害への理解を深めてもらおうと、ふきのとう秋田から

は、解説パネルやパンフレットを提供いただき、図書館では、障害の理解につながる入門書、家庭での関わり方、就労などに関する図書を展示しました。期間中は多くの方が、足を止めていました。

ふきのとう秋田からの呼びかけで、発達障害啓発週間(4月2日～4月8日)には、県内16の図書館で展示が行われました。

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■近代美術館との連携展示

特別展示「アートにみるイキモノたち」

身近に見られる小さなイキモノたちは、人間の親しい友・大切な家族の一員として作家たちの制作の題材になってきました。

今回の展示では、秋田ゆかりの作家の作品を中心にイキモノたちが表現された絵画、写真、彫刻などを紹介します。

【期間】 12月15日(木)から1月24日(火)まで
※毎週水曜日、年末年始は休館日

【時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 特別展示室

【入場料】 無料